

会 議 録

1 会議名

令和8年度第1回板倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項（公開）

（1）多世代交流プレイス事業について

（2）令和8年度板倉区における主な事業について

○その他（公開）

3 開催日時

令和8年4月27日（月）午後6時00分から午後7時10分まで

4 開催場所

板倉区総合事務所 2階 201・202会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

・委員：小林会長、植木副会長、秋山委員、新井委員、小川委員、釜田委員、
小林委員、庄山委員、中澤委員、深石委員、藤原委員、南委員、山本
委員

・事務局：板倉区総合事務所 大島所長、小林次長、高橋次長、大堀建設グルー
プ長、佐藤産業グループ長、長谷川市民生活・福祉グループ長、古川
教育・文化グループ長、千葉地域振興班長、宮崎主事
子ども家庭センター 牛木所長、塩練副所長、荒木副所長

8 発言の内容（要旨）

【小林会長】

- ・挨拶

【小林会長】

- ・条例第8条2項の規定により、半数以上の委員の出席を確認。会議の成立を報告。
- ・会議録の確認を庄山委員に依頼。

では、3報告事項（1）多世代交流プレイス事業について、事務局から説明願います。

【牛木こども家庭センター所長】

- ・資料1に基づき説明

【小林会長】

質問や意見はあるか。

【庄山委員】

場所が決まっていないとのことだが、資料等を見ると、保育園内に設置されるのではないかと思うがどうか。

【牛木こども家庭センター所長】

保育園も候補の一つだと思っているが、コミュニティプラザなども考えられるのでこれから絞り込んでいく。

【庄山委員】

老人会の役員をやっているが、資料にもあるとおり、近所付き合いが薄くなり、集まって話をする機会も減ってきていることを実感している。ただ、多世代交流プレイスができたとしても、わざわざ出向いて行かなければならず、そこまでして集まる意義を感じられないのではないか。

【牛木こども家庭センター所長】

地域のつながりの希薄化が進んでいる。誰でもいつでも立ち寄れる居場所を作り、そこで月に1回程度、皆さんが集まりたくなるような活動を委託先の団体に実施していただきながら、足を運んでもらえる仕組みを作りたい。一人でも多く

の方に参加いただき、希薄になったつながりを取り戻していきたいと考えている。

【庄山委員】

地元の公民館に行くのにもたいへんな人が多く、そういう人たちは多世代交流プレイスへも行けないのではないかと心配である。

【小林会長】

委託先候補である板倉まちづくり振興会事務局長として、中澤委員は何か意見はあるか。

【中澤委員】

庄山委員が心配される送迎についてだが、すこやかサロンでは振興会のサロンバスを使って送迎をしている。現在は参加者が少ないので10人乗り1回で間に合っているが、多世代交流プレイスへはルートを定め運行回数を増やすなどの工夫をすれば、より多くの人たちに来てもらうことができるかもしれない。

心配なのはコーディネーターを担う人材の確保である。あくまで私案だが、一つは、市職員が出向しコーディネーターとなり、地域の皆さんと一緒に活動するという形は、市職員の育成にもなると思う。二つ目は、地域おこし協力隊のような位置づけでコーディネーターに活躍してもらう。ただしその場合は、人件費などの予算を事前に確保する必要があるという財政的な悩みもある。三つ目は、板倉区のことをよく知る方や板倉区で働ける人に担当してもらうのがベストである。人材確保に関しては、こうした選択肢も検討していただければと思う。

【藤原委員】

児童の対応について伺いたい。中学生や高校生まで範囲に含めるようだが、コーディネーターはどのような人を想定しているか。子どもたちをきちんとコントロールできる人材を配置しないと、子どもたちに悪影響を及ぼしかねない。行政はこうした事業を委託と称して丸投げし、いつでも切れるようにしておくという雰囲気があり、専門職の育成ができていない状況にあると思う。特に児童の扱いは専門性の高い分野なので、単に元教員や元保育士をコーディネーターにすればよいというも

のではない。

【牛木こども家庭センター所長】

今回の委託については、こども家庭センターや総合事務所などの市関係部局が委託を受けていただく団体と連携しながら、円滑な運営となるよう支援していく。コーディネーター役を1人に限定するのではなく、委託を受けていただいた団体の皆さんから担っていただく形を考えている。

先行して話を進めている柿崎区では、複数人で担当するような方法を検討している。設置場所にもよるが、子育てひろばの職員も協力して進めていく予定である。この事業の目的は地域の活性化であり、子どもだけではなく高齢者と子どもをつなぐこともできるような方を想定している。

【藤原委員】

いずれにしてもコーディネーターを束ねる部分が重要になるので、その点に配慮した人選をしていただきたい。

【植木委員】

子ども食堂を取り入れることも一つの手かもしれないが、やすらぎ荘の割引券などを利用して家族みんなで行けるような楽しいイベントを実施するのもよい。商工会や農協、事業所さんからも協力いただいて活性化につなげていただきたい。

【釜田委員】

令和8年度事業とのことだが、8年度も1か月が経とうとしている段階で、まだ委託先も決まっていない状態で大丈夫なのか。建物を改修する必要があるら入札などもあり、先行している柿崎区を見て進めるといいう形では年度内にはできないと思う。柿崎区を追い越すような気持ちで事業を進めていただきたい。

【牛木こども家庭センター所長】

8年度中の事業の開始に向け、可能な限り早く進めたいと考えている。

【釜田委員】

地域協議会も地域住民も期待している事業だと思う。地域協議会などで進捗状況

を報告したり住民にも周知したり、住民の理解や協力を得られる形で事業を進めてほしい。

【牛木こども家庭センター所長】

承知した。進捗について随時報告させていただく。

【小林会長】

委員の皆さんから様々な課題の指摘があったことを踏まえ、委託先の選定など十分に検討してほしい。この事業は関係団体が一丸となって取り組まないと成果は出ない。慎重かつ板倉区の特長も考慮しながら前向きに進めていただきたい。状況が変わる場合は地域協議会にも報告をお願いしたい。

続いて、報告事項（２）令和８年度板倉区における主な事業について、事務局から説明願います。

【小林次長・高橋次長】

・資料２に基づき説明

【小林会長】

質問はあるか。

【中澤委員】

板倉まちづくり振興会事務局の立場で補足させてほしい。補助金の補助率は70%なので、不足する分は、振興会の持ち出しや地域の皆さんからの協賛金、協力金などにより事業を実施しているという実情をご理解いただきたい。

【新井委員】

地域独自の予算事業の中で、光ヶ原高原ヒルクライムの開催日が7月5日になったと説明があったが、周知はどのようにされているのか。

【小林次長】

実行委員会が広報活動をされている。

【新井委員】

昨年も言ったが、開催日が決まったらまずはコース沿道の町内会長に周知するよ

うにお願いしてあったはずだが。

【中澤委員】

私は光ヶ原高原ヒルクライム実行委員会のメンバーでもあるが、先週、実行委員会を開催し正式に開催日が決まったばかりで、今後、実行委員会メンバーが各地域へ説明に伺うことになっている。新井委員がおっしゃることは十分に承知している。

【小林会長】

光ヶ原高原ヒルクライムについては、毎年、様々な意見が出る。関係団体や地元町内会などには、計画の段階で早めに説明してほしい。

【庄山委員】

資料2の一覧表の中で、「1 地域独自の予算事業」は事業費10,783千円と記載されている。例えば「1 2 観光施設等整備事業」の中にも地域独自の予算事業として2,169千円とあるが、これは重複しているのか。

【小林次長】

1には、板倉区で実施される全ての地域独自の予算事業の補助金合計額を掲載しており、その後の各事業内の説明に出てくる地域独自の予算事業の金額は、全て再掲である。

【小林会長】

4その他に移る。

【佐藤産業グループ長】

- ・芝桜まつりの開催案内

【千葉地域振興班長】

- ・次回の地域協議会、4区地域協議会委員合同研修会の開催日について

【小林会長】

以上で予定した議題を全て終了する。

【植木副会長】

- ・閉会の挨拶

【小林次長】

以上で第1回板倉区地域協議会を終了する。

9 問合せ先

板倉区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL：0255-78-2141（内線123）

MAIL：itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。